

日本語教育部

■2022 年度

日本語教育部では、春学期と秋学期に日本語コースを開講し、本学に在籍する留学生の日本語学習のニーズに対応している。このほか、日本語教育関連プロジェクトや各種留学プログラムの企画・運営も行っている。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼学内行事「第 12 回 YNU 日本語スピーチ大会」開催

2022 年 12 月 13 日、第 12 回 YNU 日本語スピーチ大会を開催した。今回は、3 年ぶりに対面形式で開催し、事前申請による観客を入れた形で行った。本学で学ぶ留学生 10 名が「当たり前を見直そう」というテーマでそれぞれの思いを日本語で表現した。

国際教育センターウェブサイトで期間限定で（2022 年 12 月 23 日～2023 年 1 月 19 日まで）スピーチの動画が視聴できるようにし、学内外の方々も視聴できるようにした。また、登壇した留学生に応援メッセージを残せるように設定し、学内外の視聴者から多くのメッセージが届けられた。

審査の結果、最優秀賞はマレーシアからの留学生で、理工学部留学生のヌルル・シャキリンさんが受賞した。なお、今回のスピーチ大会も例年通り国際交流の機会を促進するという目的のもと「国際理解：国際交流における日本語の役割」クラスの受講者に原稿のチェックやスピーチの練習の手伝いをお願いした。スピーチ大会当日の様子は本大会後援でもある読売新聞にて（12/14）紹介された。

▼日本語サポーターの日本語クラス参加

2013 年度より日本人学生による留学生支援や留学生との交流の促進を目的に日本語サポーターバンク制度を取り入れている。国際教育センターホームページ上で日本語サポーター募集クラスを公開し、日本人学生の日本語クラスへの

参加の機会を提供している。2022年度は様々な学部にも所属する学生計19名が新規登録をし、主に初中級レベルのクラスに参加した。2022年度は新型コロナウイルス感染防止および教室の収容人数を考慮し、サポーターはオンライン授業期間中のみ受け入れ可能とした。

<http://www.isc.ynu.ac.jp/support/bank/>

2. 日本語教育コース

横浜国立大学の日本語の授業は、受講生の身分や単位修得の必要性によって以下の3つの科目に分けられる。詳細は、年2回発行される『日本語プログラムパンフレット』（<http://www.isc.ynu.ac.jp/study/pamphlet/>）に記載されている。

▼全学教育「日本語・日本事情」

全学教育科目「日本語中級」6コマ、「日本語上級」10コマ、「日本語演習」3コマ、「日本事情」2コマ開講し、年間延べ103名の学部生が受講した。

▼国際交流科目日本語

国際交流科目日本語は、単位修得を目的とした科目で、2022年度は、協定校からの交換留学生、YCCS生、日本語・日本文化研修留学生、横浜国立大学日本語・日本文化プログラム生が受講した。

▼全学講習日本語科目

「全学講習日本語コース」は、単位修得を目的としない科目で、主に大学院生と研究生が受講対象である。修了条件を満たした場合には、修了証を発行している。2022年度も多く大学院生および研究生が国内外から受講した。

▼特別クラスの開講

- ・2022年度秋学期に日越大学MBAプログラムの学生のために特別クラスを

開講した。

・2022年度秋学期にインフラストラクチャー管理学（IMP）の学生のために特別クラスを開講した。

3. 各種留学プログラムの運営

▼短期留学国際プログラム（JOYプログラム）

協定校からの交換留学生を1学期または2学期間受け入れるプログラムで、留学生は日本語科目や英語による専門科目授業を受講する。2022年度は対面での受け入れが再開し、多くの留学生が日本語科目を受講した。

▼横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム

韓国の世宗大学校と本学都市科学部の部局間協定に基づいた授業料徴収型短期留学プログラム「横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム（通称世宗プログラム）」の実施は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から2022年4月～2023年2月実施予定であった第9期目の実施を見送ることとした。

▼横浜国立大学日本語・日本文化プログラム

2016年10月より新しく授業料徴収型短期留学プログラムである横浜国立大学日本語・日本文化プログラムを立ち上げた。本学部局と相手大学の学部等が部局間協定を結ぶものであり、2019年度からは協定部局がこれまでの国際戦略推進機構から都市科学部へと移行した。修学期間は1年とし、学生は原則として国際戦略推進機構が開講する日本語科目と講義科目（日本語による日本事情科目、国際理解科目、および都市科学部が提供する講義科目）を年間24単位履修する。その単位は派遣大学で互換単位として認定される。コロナ禍のため、2020、2021年度には受け入れを中止していたが、2022年度には3年ぶりに受け入れを再開し台湾淡江大学の学生10名を受け入れた。

▼日本語・日本文化研修留学生（国費）の受け入れ

2014年度より、日本語日本文化研修生（国費）の受け入れを開始した。1期生4名（ブルガリア1 インドネシア1 タイ2）、2期生3名（韓国、フランス、ベルギー）、3期生3名（ハンガリー、ミャンマー、韓国（大学推薦））、4期生6名（ロシア、ブルガリア、モンゴル、シンガポール、ペルー、スロベニア（大学推薦））、5期生5名（ブラジル、モンゴル、カザフスタン、エストニア、イギリス（大学推薦））、6期生2名（中国、韓国（大学推薦））、7期生（ウクライナ、インドネシア、フランス（以上3名は11月に渡日）、中国（母国からの参加、渡日せず）、7期生（ブラジル1名 2022年3月渡日）を受け入れた。2022年秋には、8期生（ブラジル1名 韓国1名、10月渡日）を受け入れ、日本語レベルや専門に応じ、日本学プロジェクト（必修）のほか、日本語科目や全学教育科目等を履修している（各学期合計12単位以上）。修了論文のテーマはウェブサイトに掲載している。

http://www.isc.ynu.ac.jp/about/program/japan_studies_project/

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、予備教育生（大学院進学予定の国費研究留学生）および教員研修留学生を対象とした15週のコースであり、レベル等によって、7～9コマの日本語科目の受講を義務付けている。2022年度大学院予備教育生は、秋学期1名を受け入れ、教員研修留学生は受け入れがなかった。

▼YCCSプログラム

YCCSプログラム生（6期生10名、7期生10名、8期生8名）は、日本語24単位が卒業要件となっている。各自のレベルに応じて、日本語授業を受講した。

▼科目等履修生制度の実施

神奈川県下の大学に在籍する留学生を対象に、日本語科目を履修できる制度として、科目等履修生制度を作り2022年3月、9月に募集を行った。

▼かながわ留学生就職促進プログラム

同プログラムは、ヨコハマ・カナガワ留学生就職促進プログラム（2017-2022年度）の活動を引き継いだものであり、外国人留学生の日本国内での就職率を引き上げることを目的としている。

*本プログラムウェブサイト <http://www.careerjapan.ynu.ac.jp/>

2023年2月25日にNPO法人楽しい日本語の会ビジネス日本語コースとの連携授業を行った（担当：本学日本語教育部 中川、横浜市立大学 鈴木綾乃准教授）。

4. 国内・海外出張

▼海外出張

出張者：小川誉子美

出張先：ベルギー国

期間：2023年3月26日~2023年4月2日

用件：新ルーベン・カトリック大学（貴重書庫調査）、リエージュ大学（講義）ルーベン・カトリック大学（セミナー）

5. その他

▼神奈川県海外技術研修員の受け入れ

神奈川県海外技術研修員制度にて来日した研修員の受け入れを行った。研修員の専門は日本語教育で、本学では本人の日本語能力向上と日本語教授法の習得を目的とした研修を実施した。

▼2023年度春学期に向けて全面的な対面授業実施のための教室の環境を整えた。